

広報

ただみ

2

2010 月号

No. 477

平成22年2月10日

今月の表紙

1月31日に行われた国指定重要文化財「成法寺観音堂」の文化財防火デー消火訓練には消防団員、婦人消防隊など約50名が参加。積載車が出動し消防ポンプからの放水、さらに消火栓や放水銃による消火活動で文化財愛護の意識を高めた。

青少年健全育成主張大会・

標語表彰式 2～9

国際生物多様性年記念シンポジウム……………10～11

只見毎日杯ジャイアントスラローム大会 他……………12～13

町の話……………14～15

熱い思い みんなの心に響け

健全育成主張大会・標語表彰



第24回只見町青少年健全育成主張大会・健全育成標語表彰式が、1月30日に明和地区センターで行われ、気持ちの込められた熱い言葉に感動の拍手が送られました。

標語入賞作品（敬称略）

部門	賞 名	標 語	所 属	氏 名
小学生の部	優 秀 賞	只見町 郷土の伝統 ひきつごう	朝日小学校5年	ますだ かん 増田 寛
	佳 作	ブナの木に 負けず根をはれ 只見っ子	只見小学校5年	ば ば まさき 馬場 真樹
	佳 作	毎日の 努力がいつか 夢むすぶ	只見小学校5年	め ぐろ つばさ 目黒 翼
	佳 作	只見町 見守り続けて 50年	明和小学校5年	ば ば な お や 馬場那央也
中学生の部	優 秀 賞	今という 生きてる実感 大切に	只見中学校3年	くろだ ちふみ 黒田 智文
	佳 作	何ごとも あいさつ返事 基本から	只見中学校1年	ば ば こうへい 馬場 康平
	佳 作	「やめようよ」 友達だから 言えること	只見中学校1年	ば ば みつひろ 馬場 光弘
	佳 作	助けあい 笑顔あふれる 只見町	只見中学校1年	ば ば み き 馬場 美樹
高校生の部	優 秀 賞	伝えよう よき伝統を 後世へ	只見高校2年	やまなか まさき 山中 勝貴
	佳 作	考えよう 明日の地球 今日のエコ	只見高校1年	は せ べ ちあき 長谷部千晶
	佳 作	残したい 光る笑顔と 帰る場所	只見高校3年	しまたに さ き 島谷 紗希
	佳 作	あいさつと 笑顔を育てる 家族愛	只見高校3年	さとう あき と 佐藤 亮人
一般の部	優 秀 賞	見ているよ 君の悩みも がんばりも	長浜	き つ れい こ 吉津 禮子
	佳 作	ボランティア かざらぬ気持ちで 第一歩	梁取	やまうち みよこ 山内美代子
	佳 作	押し付けず もっと聞こうよ 子の声を	福井	わたなべ なお え 渡部 直江
	佳 作	ただいまと 元気な声を 待つゆうべ	福井	わたなべ こ 渡部ゆき子

小学生3名、中学生3名、高校生2名が、今思っていること、体験したこと、感動していること、体感したことなどを心を込め発表した主張大会では、その熱い思いが約130名の来場者に伝わり、発表者の言葉に感動されていました。

続いて行われた標語表彰式では、青少年健全育成町民会議会長の目黒町長が、出席された入賞者一人ひとりに賞状と記念品を贈りました。標語には286点の応募があり、どれもすばらしいものでした。

主張大会での発表内容と、標語の入賞作品を紹介します。ぜひ、ご覧いただき、健全育成にご協力をお願いします。本事業は、町民の皆さんからの協賛金により実施されています。

じいちゃんてすごい！



只見小学校6年

よし
吉田

しおり
栞さん

私には同じ只見町内に住む祖父がいます。母の父親になります。私は幼い頃から祖父を「大倉じい」と呼んでいます。私は「大倉じい」からいくつかのことを学んだのでそのことについて紹介します。

大倉じいはいは一人暮らしです。七十才を過ぎていますが、掃除、洗濯、料理など何でも自分でやっています。米作りもやっています。昨年の秋に私は脱穀の手伝いに行きました。木を組んで作られた「はで」にかけてあるたくさんの稲を見て、（全部これをやるのは大変そうだなあ）と思いました。やり方を聞き、さあ始めようと機械のエンジンかけると、驚くことにその音を聞きつけて近所の人たちが集まってきてくれました。そのおかげで脱穀はあっという間に終わりました。私はその時に（人の力が集まるとすごいんだなあ）とつくづく感じました。不思議に思った私は、「声をかけてもいないし、親せきでもないのに、どうして近所の人たちが手伝いに来てくれたの。」

と聞いてみました。すると大倉じいは、「あたりとなりの人、大切にしてください。いざつちゅう時、助けでやれんだ。」

と教えてくれました。その事を母に言う、「じいちゃんも、そうやって手伝って来てつがら助けでももらえんだよ。」と言っていました。私は、そんなじいちゃんがすごいなと思いました。そして、声をかけなくても自然と集まって来てくれる近所の人たちがいるからこそ、一人のじいちゃんもがんばっていられるんだなと思いました。都会ではとりに住んでいる人の顔さえ知らないこともある今の世の中にあつて、只見にはこのような「人のつながり」があるんだなと感心し、私は心が温かくなりました。

じいちゃんはしめ縄作りもやっています。飾りだけ見れば簡単そうに見えるけれど、作るのには手間ひまがかかり、本当に大変な作業です。青わらは夏の暑い時期に刈り取って干します。しめ縄独特のあの色は暑い

ときに干さないと出ないのだそうです。昔は何人かで手分けをして作業にあたっていましたが、今は後継者がなく、じいちゃん一人になってしまったそうです。近くの神社の大きなしめ縄も祭りとお正月と年二回、一人で作っています。お正月には家中がわらだらけになり、いくら掃除をしてもまたわらが出てくるほどです。硬いわらやイワシバを使っているの、その頃になるとじいちゃんの手と足はボロボロになります。ごつごつした丈夫そうな皮も悲鳴をあげそうなので、忙しいときは寝る間もおしんで作ることもあります。

私が驚いたのは、しめ縄作りで大変な時でも、お正月に神様にお供えするお膳が床の間に必ず準備してあることです。このように、じいちゃんほど忙しさに忙しくても、年中行事をとっても大切にする人です。そのためか、神奈川の大学の先生達がわざわざ来て、話を聞いていくこともあります。それは只見に残っている風習や文化がとても貴重で、それを取材するためでした。生活が便利になったことで昔から伝わる貴重な伝統文化や民俗が失われつつある中にあつて、じいちゃんの果たしている役割はとても大きいんだなと感じました。

このように、わたしのじいちゃんは一人暮らしだけれど、地域の人たちとしっかりとつながり合って生活しています。その分、地域のいろいろな役や頼まれ事も多いため、私の学校の行事に來られない事もあります。それはとても

も残念な事です。でも、近所の人たちと関わり、そして地域に残る文化をたとえ一人きりになっても一生懸命守っているじいちゃんを心からすごいと思うし、私の自慢のじいちゃんです。今はまだ年中行事の作業を手伝わせてもらえないけれど、いつかは私も大倉じいの手伝いをしてみたいと思っています。そのためには、じいちゃんに教えてもらわなければならないことがたくさんあります。だから、大倉じい、私が大きくなるまで、絶対に元気で長生きしてください。



私を変えたもの



朝日小学校6年

須佐

萌さん

まずはこの歌をお聞きください。
(朝日小学校児童会の歌)

聞き覚えのあるメロディに、聞き慣れない歌詞が加わっています。これは、朝日小学校に今年できたばかりの「児童会の歌」です。そして私は児童会の代表委員長としてこの歌作りの中心として取り組んだ一人です。代表委員会は、各委員会の委員長と四年生以上のクラスの代表の八人で構成されていて、その名の通り、児童会の代表として朝日小を良くしていくための活動を行っています。これまで、児童会の歌作りだけでなく、一年生を迎える会などの集会やペットボトルのふたの回収なども、私たち代表委員会を中心に行ってきました。中でもこの児童会の歌作りはとて大変で、何回もみんなで集まって話し合いを行ったり、陸上や音楽の練習で休み時間がとれない時は放課後や休みの日に集まったりもしました。今思えば、遊ぶことよりもはるかに時間をかけてとりくんできたと思います。ここまでで、みなさんは私が

すっかりした優等生のように見えるかもしれません。どうですか？

私は、以前はこんな子どもではありませんでした。三年生の時に転校してきた私は、言葉遣いが悪かったりすぐに人を攻めたり、授業中わからないことがあるとすぐにあきらめてぼーっとしているような子どもでした。また、私は大変な面倒くさがり屋で人の手伝いや協力ということがきらいでした。

しかし高学年になると私の中に変化が起きました。理由はよくわかりませんが、ある時を境に友だちの良いとところをまねしようと思うようになったのです。

私の仲の良い友だちには、自分の意見をしっかりとと言える人や、何でも自分から積極的に取り組もうとする人などがいて、そんな友だちと生活するうちにいつの間にか、影響を受けるようになりました。代表委員の長になる時も友だちが「萌ちゃんならできるよ。」と勧めてくれたのです。

初めは友だちの影響ばかり受けて活動していた私ですが、いつしか自分も周囲に影響を与えられる人になろうと思いはじめました。そんな中で私がリーダーとなつて完成した児童会の歌は私に大きな感動と達成感を与えてくれました。初めて体育館で全校生で合唱した時は、鳥肌がたつほど感激しました。この児童会の歌には「みんなが主役の学校」という歌詞があります。今私はこのことを達成するために、みんなに良い影響を与えられる代表委員長でありたいと強く思っています。

そして私がそうであつたように、みんなが良いところを認め合いながら輝ける朝日小学校にしたいと願っています。「人の良いところを探そう。」とよく言われることですが、そのことをきっかけに自分がこんなに成長できるとは思いませんでした。友だちからの影響が、自分自身の努力につながった私は、苦手だった算数が得意になったり、運動が得意になったり、体育交歓会の百メートル走で二位に入賞したりと、生活の中でたくさん良いことがよい方向へ向き始めました。友だちの良いところをしつかり見ることは、自分を変えるための第一歩だと思うのです。

ですから、みなさんの中で、「自分を変えたい。変わりたい」という人は、ぜひ周りの人の良いところをまねすること、これを行ってみてはどうでしょうか。

私は今、自信を持つて言えます。私を変えたもの、それは私に影響を与えてくれた友だちであり、代表委員長と

いう役割であり、それらのきっかけを自分の力にしようとした私自身だということ。

昨年度の悔しさとライバルの存在



明和小学校6年

飯塚

駿くん

ぼくは、小学校体育交歓会の千メートル走で一位をねらっていました。スタート位置に立った時、今までに経験したことのないようなきん張感で、心臓がバクバク動いたり、足がガタガタ震えたりしました。そんな自分に「今まで一生けん命練習してきたから、大丈夫だ、勝てる。」といい聞かせ、ピストルの合図を待ちました。

昨年度も、ぼくは千メートル走に出場しました。その時は、只見小学校の

M君に負けました。トラック四週目からM君に追いついていけませんでした。タイムで約十秒、距離で約八十メートルの差で、完敗でした。とても悔しく、「来年は、絶対に勝ちたい。」と思いました。

今年度の体育交歓会に向けての練習は、九月から始まり、練習はともハードでした。練習を始めたころは、二百メートルのトラックをダッシュし、一周四十秒以内で走りきる練習でした。一週間後からは、三百メートルを六十秒以内で走りきる練習になり、とても苦しく、きつい練習になってきました。そのため、足が痛くなりました。練習の途中で、「もうだめだ歩こうかな。」と思ったことが何度もありました。しかし、そんな時は、昨年度の悔しさを思い出し、「もう少しがんばれ、やればできる。」と自分にいい聞かせ、歯を食いしばって練習をしました。「位置について、バーン。」千メートル走がスタートしました。ぼくは、ライバルのM君にぴったり付いていき、ラスト一周でスパートをかける作戦を考えていました。しかし、一周目からペースが速く、「苦しい。」と思いました。また、「このペースで五周走ることはない。」と自分にいい聞かせ、がんばって走りました。しかし、二週目になっても、ペースは遅くなることはなく、今まで経験したことのない苦しさを感じてきました。三週目、四週目になってもペースが遅くなることはありませんでした。ぼくは、

ただM君の後姿を見て走り、必死でついていきました。「カラン、カラン、カラン。」かねの音がおおきくなり、いよいよラスト一周になりました。第一コーナーに入る直前、「ここだ、抜くぞ。」と思い、作戦通りに、ラストスパートをかけました。スッとM君の前に行き、力の限り全力で走りました。「いけるかも。」と思いました。足は、すでに棒のようになっていて、思うように前に進むことは出来ませんでした。体全体が疲労でいっぱいでした。すると、

第二コーナーで、「あつ。」と思った瞬間、M君がぼくを追い抜き、三百メートルくらい前に走りました。「負けれない。」と思い、足を前に前に運びましたが、その差を縮めることはできず、そのままゴールしました。タイムは三分二十七秒で二位でした。しかし、昨年度よりも十三秒も縮めることができ、自己ベストが出せました。負けたことは悔しかったですが、自分の力を出し切り、満足の行くタイムを出すことができ、悔しさから少しづつうれしさに気持ちが変化してきました。

ぼくが、ここまでがんばれたのは、昨年度の悔しさとライバルの存在があったからです。来年は、中学生になり、M君と同じ中学校に入學します。ぼくは、中学校でも長距離走を続け、駅伝部に入りたいと思います。そして今年の悔しさをばねにし、また、ライバルに負けたくないにこれまでに以上に努力していきたいと思っています。

電気の廃棄物



只見中学校2年

藤田 百生さん
ふじ た もも い

みなさん『NUMO』という言葉をご存知ですか。

私は新聞でこの問題を知りました。今から四十年前、私たちの父や母が生まれた頃に原子力も誕生しました。

私たちの家庭をささえる電気。現在約三割は、原子力発電です。原子力の誕生は原子炉の中で、ウランの核分裂反応により発生する熱を利用して湯を沸かし、その蒸気で大きな羽根車を回して発電します。家庭からゴミが出るように、原子力発電からも『廃棄物』が出ます。ウランは発電により約四パーセントしか消費されず、残りの約九十六パーセントは再利用できます。そこで原子力発電所では使い終わった燃料から消費されなかったウランと新しく生まれたプルトニウムを回収し、再び原子力発電所で使用するリサイクル計画を進めています。

原子力発電所で使われた燃料を再処理した後に残る放射能レベルの高い不要になった液体をガラス原料と融合し、合わせ固めたものが『電気の廃棄物』です。この『電気の廃棄物』を捨てる

方法が地層処分です。地下三百メートル付近に長い間にわたって安全・確実に隔離する方法です。地下では、地上に比べて、地震、津波、台風等の自然現象による影響がほとんどなく、戦争、テロ等の人間の行為による影響も受けにくいという特徴があります。また、地下にある物質は主に地下水によって運ばれますが、地下三百メートルでは地下水の動きがとて遅いため、物質の移動が非常に遅いという特徴もあります。さらに、酸素がとて少ないため、錆びなどの化学反応が抑えられ、物質を変質させにくいという特徴があります。これらの特徴により、地下三百メートルは地上に比べ、物質を長い間、安定して閉じ込めるのに適した場所といえます。

みなさんはこの地層処分をどう思いますか？

私たちの未来を思うと、今すぐ考えなければいけません。

平成二十年末までに使い終えた燃料をガラス固化に換算すると約二万二千二百本、平成三十三年頃には約四万

本に達する見込みです。現在使用済燃料の形で青森県六ヶ所村や原子力発電所などに貯蔵管理されていますが、地上保管を続けることは難しく、放射能が減って、人体に影響のないレベルになるまでには数万年かかり、その間人間が地上で管理し続けるのはとても難しい状況です。

日本の原子力発電所の運転、建設、着工準備中の数は六十六箇所あります。これからも人類が生き続ける限り原子力は増え続けます。

エネルギー面から見ると様々なエネルギー発電がありますが、エネルギー効率、エネルギー資源、エネルギー出力などを比較してみると、実用性の高いエネルギーです。

環境面から見てもCO₂が少なくなるのは確かで、環境への影響も少ないというメリットもあります。しかし、不要になった温水による海洋生物への影響など完全にクリーンなエネルギーとはいえないようです。

地域から見ると地方交付金を与えられたり雇用が増えたりといった利点が建設地域にはあります。しかし、いなくなつた原子炉の問題や危険性、交付金の使い道など欠点もあります。地域の声も賛否両論という現状です。魅力的な原子力発電。危険な原子力発電。私達はエネルギーを使う限り、しばらくの間はエネルギー問題を抱えつづけます。もう、目をそらす訳にはいかない現実があるのです。

今、この瞬間も『放射性廃棄物』は増え続けています。家庭のゴミに

はゴミ捨て場がありますが『電気的廃棄物』にはまだ捨てる場所がありません。

他国はすでに処分場を決めています。日本では、まだ問題の存在さえ広く知られていないのです。

今後、私達に求められるのは、消費エネルギー自体の減少ではないでしょうか。『電気の廃棄物問題解決への取り組みNUMO』をあなたはどうか考えますか？



愛するふるさと のために

只見中学校3年

やぎ した あさ み
柳 下 朝 実さん

みなさんは、只見町が好きですか。私は、自然が豊かで、やさしい人ばかりいる只見町が好きです。ですが、こんなに良い町でも、直さなければいけない点や、ちよつと工夫すれば、より良くなる点があるという事を、只見町町制五十周年記念に行われた、子ども議会を通して学びました。私は、議会での質問事項を三つ用意しました。しかし、最初は何も思いつかず、友達や先生、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんと様々な年代の方に只見町の改善すべき点、工夫すべき点を質問してみました。自分では何も思いつかなかつたのに、それぞれの年代によつて、異なる意見がたくさん出てきました。その中でも、私が最も共感できた三つを選びました。

まず一つ目は、お年寄りの方の生活についてです。今の只見町は、お年寄りの割合が多いです。そういう方の、今後の生活のために只見町から補助金が出ないのかと思いました。もし補助金が出れば、一人暮らしのお年寄りの方も安心して生活できるのではないかと考えました。

二つ目は、只見町には街灯が少ないのではないかという事です。夕方、暗くなつてくると、下校中怖いなと思う事があります。私達中学生だけでなく、高校生や大人の人も暗い夜道を歩くのは不安だと思えます。今の世の中、ぶつそうなニュースが多いので、安全面の事も考え、街灯は必要だと考えました。

三つ目は、静かに勉強のできる施設

がないのではないかという事です。特に、中学生や高校生はテスト前、勉強しようと思つても家では集中できない人がいると思います。また、そのような施設ができることによって、小中学校生との交流も深まってくるのではないかと考えました。

しかし、この三つの質問事項も実現させるには、たくさんさんの問題点がありました。

お年寄りへの補助金の件では、内容によつてお金の額はちがうが、県や町からの制度があるという答えでした。

次の街灯の件では、土地の所有者と電気料の支払いの承諾を得なければいけないという事でした。そして、勉強ができる施設では、各小中学校や地区センターの図書室をマナーを守つて積極的に使つてほしいとの事でした。

私達が、あれをやつてほしい、これをやつてほしいと軽く言っている事でも、いざ実現させようと思うと、とても時間とお金がかかります。このことから、何事も良く考えてから行動したりしようと思うようになりました。

この子ども議会では、私達中学生だけでなく、三地区の小学生も参加していました。そこで、ほかの人の意見を聞いてみると、共感できる物がいくつかありました。それは、水の郷、只見町。ブナの森が有名な町といいながら、それらを強調できていないのではないかという事です。ある人は、自然が豊かであり、自然首都でもある只見町ですが、噴水や木を使った芸術的なものを作ってみてはどうかと提案しま

した。確に、噴水や芸術品ができることによつて、観光客も増え、只見町の自然の素晴らしさをたくさんの人に知ってもらえるのではないかと思いました。私は、これはぜひ実現させて、自然首都としてふさわしい町を作つていつてほしいと思いました。このような意見がたくさん出た子ども議会は、只見町の改善すべき点や工夫すべき点を考えるだけではなく、たくさんの人達と意見を出し合い、話し合う事の大切さや必要性を学ぶための議会だったのだと感じました。また、町長さんと同じく話せた事は、これから社会へ出て役立つと思うので、とても貴重な体験になりました。

ところでみなさんは、東京など大都会へ行つた時に、息が苦しかったり、空気が汚れているなど感じた時はありませんか。私は実際、東京へ行つた時に息がしづらいつ感じました。都会へ行くと、車が多いため、廃きガスで空気が汚れています。また、人が多いため、ゴミのポイ捨てがよく見られます。ですが、この只見町は、空気がきれいで、住みやすい町だと、改めて感じる事ができました。

私自身も、噴水をつける事や芸術品をつくるという大きな事はできませんが、何か只見町のためにできることはないか考えてみました。たとえば、ゴミのポイ捨てをしない、使わない電気は消す、食べ残しをしないなどといったエコ活動をすれば、只見町はより住みやすく、良い町に

なると思いました。みなさんも、この只見町にしかない素晴らしい自然を守つていきましよう。そして、町の人みんなが、ふるさとである只見町

責任を持つこと



只見中学校3年

本名 奈菜さん

を大好きになるように、意見交換を合い、町づくりを活発にしていましよう。

私達は、もつと命を大切にすべきだ。ある映像を見て私は強くそう思いました。私が見た映像、それは、沢山の犬や猫達がひどい扱いを受けている映像です。本場に小さな檻の中にぎゅうぎゅう詰めになれ、トラックで運ばれる動物達。その山積みの中、トラックの荷台から投げ降ろされます。人間だつてそこから落ちたら大怪我をするかもしれない高い所からです。そしてそれはまたどこかへ運ばれて行きます。足や手が檻の外へ出ていければ、人の足で蹴られ、逃げようとすれば、鍵棒のようなものでつかまえられて、また押し込められるのです。

その映像はたぶん日本ではありません。でも、日本には保健所という所で毎年多くの動物達が処分されています。戦争当時、動物の毛皮は兵隊さんの服に使われたと言います。そのために、

動物を殴つて殺す役目の人もいました。「ごめんな。ごめんな。」と言ひ、心を傷めながらしかたなくやってたのだと思います。今はどう処分するのか私には分かりません。でも、それに携わる人達が嫌々やつていふというの、今も昔も変わらないはずで、ではなぜ、このような動物達が増えてしまふのでしょうか。

ペットを飼う事に対して責任が無く、あきてしまったという人もいます。しかし、それ以外の理由もあります。一つは、人間の都合、状況が動物を飼う前と後で変わつてしまふからです。もう一つは、動物が迷子になつてしまふからです。

皆さんは動物を飼おうと決めたら、どんな気持ちになりますか。どんな名前を付けてあげようか。どこに部屋を用意しようか。どんなおもちゃを買つ

てあげようか。散歩はこうしよう。可愛くてもしつけはちゃんとしないで。など、嬉しきでいふばかりだと思います。動物もそのように迎えられたら嬉しいと思います。でも、何か月かして突然引越す事になり、そこでは動物を飼えないとなつたらどうしますか。ここで、しかたなく動物を捨ててしまふ人が多いのです。

また、動物の方が迷子になつてしまひ、家に帰れなくなつてしまふ事もあります。飼ひ主に会いたくなり、探しに行つたら迷つてしまつた。好奇心旺盛な子犬や子猫などは、見知らぬ物について行つたら帰れなくなつた、などという事もあります。理由は様々ですが、このような動物達も沢山います。皆、しかたなく処分されてしまふのです。

確かにそれはしかたのない事かもしれませんが。でも、だからと言つて動物を大量に処分する事は正しいと言えるのでしょうか。

皆さんは、迷子になつた事はあります。私はあります。その時、帰りたい、助けてほしいと思ひ、怖かつたのを覚えています。迷子になつた事、思ひます。動物も同じで、捨てられたり、迷子になつたら恐怖でいっぱいになるのです。

動物を飼うということはつまり、一つの命と共に過ごすということです。私は小さい頃、保育所で鉄棒から落ちて怪我をしたことがあります。その時、保育所の先生がすぐに駆けつけて



来て下さり、病院まで私を運んで下さいました。預かっている子供達をまるで我が子のように面倒を見て下さる先生方は、とても責任感が強いのだなと思いました。動物を飼うときも、そのぐらいの責任が必要です。首輪を付けてあげたり、もしいなくなつてしまつたら保健所や役場、近所の人に連絡をすることも責任の一つです。

命を大切にするにはどうすればいいのかをよく考え、自分にはそれが出来るのかを判断することが、命に対する責任なのです。

最近気づいたこと



只見高等学校1年

湯田知子さん

中学三年の夏、私はある思いを抱いて進路を決めました。「自分の周りにいる友人や親から離れて誰も知り合いがいらない町で高校生活を送り、自分を変えてみたい。」いつも口だけで有言実行できなかった私でしたが、その時は本気でこう思っていました。なぜこのように思ったのかはあまりハッキリは覚えていませんが、とにかく自分を変えたいという思いが強かったことだけは覚えています。何事も最後までやりとげられず、いつも自分を甘やかし、親をうざいとか思えなかった私。そんな自分が大嫌いでした。

中学生だった夏から一年以上経った今、私は只見で生活をしています。只見で生活し始めてから約十ヵ月が過ぎました。私はこの短い十ヵ月で何か変わることができたのだろうか？ そんなことは客観的に見れば見つめることができるかもしれませんが、客観的には絶対に分からない心境の変化を感じることがありました。それは入学式から約三日後、私がみ

ごとにホームシックにかかりました。そしてその時、どれだけ自分の家が良いものだったのか、家族がどんなに温かいものなのかを実感させられました。同時に親に対する気持ちも変化しました。うざいとは思っていなかった親の存在。しかし、寮生活をしているうちに大切な存在へと変化していき、その親を悲しませないために自分は何をしなければいけないのかを考えるようになったり、家へ帰った時はなるべく家族と会話をしようなど、今まで考えたこともなかったことが一つの心境の変化からたくさん生まれることになりました。しかし、その半面、そんな自分を馬鹿らしく思った。親と離れて学ぶことはたくさんあるけれど、親の大切さなど中学時代でも気づくことができたはずなのに、どうして今頃気づくんだらうと思いました。このような考えを持ったのは、この時だけではありませんでした。

新しい生活にも慣れたある日、私はテスト勉強をしていました。家に

帰ると集中できないのになぜか寮では集中できる。その時、遅いが気付いてしまいました。何でも自分の気の持ちようで変わるということ。何で私は今までそんなことに気付かず生活してきたのだろう。嫌なことに適当な言い訳をつけて避けていた自分が本当にみじめに思いました。その時は自分を責めてばかりで考えていませんでしたが、私はきつと気の持ちようだと気がついてははず。しかし分かっていながら、集中できないのは環境が悪いからなど、人や場所のせいにして自分の意志が弱いということから目を反らしてきたのだと思いました。このように考えると私が遠い町で高校生活を送る意味があったのかと思いました。しかし、私は只見で高校生活を送ることができてよかったと思います。どんなに自分の気の問題だと分かっている、家にいては絶対に自分を変えることなんてできないから。私は人より厳しい経験をしなければ、自分の意思は強くならないと思いました。だからホームシックというものを経験できてよかったと思います。入学当初は、只見を選んだ自分をうらみました。しかし今は違います。自分の選んだ進路は正しかった。私は最近こう思います。



平和であること



只見高等学校2年

五十嵐 梨紗さん

皆さんは普段生活している中で、この世界のどこかで起こっている戦争や紛争地域に住む人々のことを考えたことがありますか。今ご飯を食べているときインドのスラム街の子どもたちは：とか、今温かい布団で寝ているときイスラエルの人々は：とか、そんなことをいつも意識して過ごす人はあまりいないと思います。私たち日本人は、平和で豊かな事足りた生活を送っています。毎日三食ご飯が食べられて、毎日学校に通えて、毎日お風呂に入れて、毎日温かい布団で眠れる。私たちにとっては当たり前のことです。しかし、世界の大部分の地域では私たちが当たり前だと思っていることが当たり前ではないのです。

例えば、「世界がもし百人の村だった」という有名な話があります。村人百人のうち七十人は文字が読めず、八十人は標準以下の居住環境に住み、五十人は栄養失調、そのうち一人は瀕死の状態になっています。私たちの周りに字が読めない人がいるでしょう。栄養失調で今にも死にそうながっているでしょうか。私は見たことがありません。少なくとも私たちが住んでいるこの町にはいないと思います。日本やアメリカのような先進国に生まれ、裕福な生活ができるのは、ほんの一握りのごく限られた人たちだけなのです。私たちが生きていく上での環境が、非常に恵まれているということを認識しておくべきだと思います。

現在、地球上では三十以上の紛争と内戦が未だに続いています。特にその中でアフリカで起こっているダルフル紛争は、最も危険なところだと言われているそうです。ダルフルは一九五六年の独立以来、一九七二年から一九八三年の十一年間を除いて、二〇〇万人の死者、四〇〇万人の家を追われた人、六〇万人の難民が出ているそうです。私は先日この紛争で難民となった人々をインタビューしたビデオを見ました。金銭や家畜を奪われ、いくつもの村が焼かれ、村人たちを無差別に殺し

ていったのだと彼らは語りました。私は彼らの言葉からその情景をうまく想像することができません。彼らが感じた恐怖を同じように感じることはできません。私の今の生活と彼らの生活があまりにもかけ離れているからです。世界各地で起こっている紛争や内戦の多くの元凶は先進国にあります。私たちの生活は何億もの犠牲の上に成り立っているのです。

現代社会の授業で国際社会について学びました。政治的な目線で書かれた文章には、紛争や内戦の犠牲者になった人々の声までは載っていません。しかし、私たち先進国に住む人々は、少しでも多くこれらの地域の現状を知るべきだと思います。現在国際協力としてOEDやPKOなど、発展途上国や紛争地域で活動している機関があります。私たちがそれらの活動に加わって実際に現地に赴くのは困難ですが、支援物資を送ることやコンビニ、電話、インターネットなどで募金することができます。

地球上に住む人たちが笑顔で毎日過ごせるのが理想です。それはとても難しい事です。少しでも理想に近づくためには、積極的な国際協力が必要だと思います。国際協力と言っても、軍事的な国際協力は私は反対です。武力によって問題を解決する事はできないと思うからです。

それよりも豊かな国は発展途上国や紛争地域などの貧困で苦しむ人々に手を差し伸べなくてはならないと思います。



▲ 標語入賞者「一般の部:優秀賞 吉津 禮子さん」



▲ 標語入賞者「小学生の部:優秀賞 増田 寛くん」

「国際生物多様性年」

記念シンポジウム



▲ 調査研究員の皆さんによるディスカッション

2010年は、国連の定める「国際生物多様性年」の年で、10月には、「国際生物多様性条約締約国会議（COP10・コッブテン）」という国際会議が名古屋市で行われます。これを記念したシンポジウムが1月23日に季の郷・湯ら里で行われ、町民の方々はじめ関係者、約200人が参加しました。

このシンポジウムは、茨城県つくば市に拠点をおく独立行政法人森林総合研究所がプロジェクトチームを編制し平成20年度より3カ年計画で只見の自然を調査研究している成果について中間報告するものです。只見町は、国内最大級と言われるブナ天然林をもち、絶滅危惧種や天然記念物に指定されているカモシカ、イヌワシ、ユビソヤナギなどが数多く生息しています。この豊かな自然環境が人びとの生活やレクリエーションなどに

密接に関係し、自然の恩恵を受けながら生活している町であることなど、プロジェクトの研究目的に向いていることから調査地として選択されました。実際の調査活動は黒谷入地区や布沢地区などの山林や溪流、また町民アンケートなどで綿密に行われ、森の恵みと人びとのつながりに関する貴重なデータが集積されました。

シンポジウムでは、吉田謙太郎長崎大学環境科学部教授による基調講演が「森の恵みと生態系サービス」と題し行われ、森林の生物多様性と生態系サービスや町民アンケート調査と全国インターネット調査による森林生態系の経済評価などについて講話されました。講演で吉田教授は「このシンポジウムで豊かな生物多様性をよくむ地域（只見町）から、まずは情報を発信したい」と考えを述べました。

続いての調査報告では、チームメンバーの方々から、約2年間に渡る調査研究の成果を写真なども紹介され、分かりやすく説明されました。釣りや山菜・キノコ採りなどを通じて、森林の生物多様性が人びとの暮らしにどのような恵みをもたらしているのかや、里山としての森林利用のあり方を探求することなどにより、只見の自然の貴重性や重要性を検証、認識する報告となりました。

最後に「只見の生き物たちがもたらす森の恵み」について調査研究員の皆さんによるディスカッションが行われ閉会しました。

平成22年度で終了する調査研究で得られる只見町の情報やデータは、今後、生物と自然環境にかかわる様々な研究分野で先進的なテキストとなることでしよう。

生物多様性ってなに？

生物多様性は、すべての生物の間に違いがあることを意味し、生態系の多様性と種の多様性、遺伝子の多様性に大きく分けられます。生態系は、森林から海洋、砂漠、都市公園など様々です。また、地球上には大型ほ乳類から微生物にいたる3千万種を超える生物種が存在すると推定されています。そして、同じ種であっても遺伝子の違いがある多様な個体が存在することにより、病気の蔓延や絶滅の危険性が回避されることも知られています。



只見の自然はなぜ貴重か

～調査報告要旨より～

杉村 乾氏(森林総研・国際連携推進拠点主任研究員)

生態系サービスとは

私たちの生活は多様な生物からなる生態系の働きの上に成り立ち、その恩恵は「生態系サービス」と呼ばれています。これまで生物多様性は多くの場合、絶滅危惧種の保護という目標が主であったが、最近では生態系サービスに対する関心が高まっています。森林の生態系サービスとしては、供給サービス(木材、食料としての山菜やきのこ、葉草、さまざまな原料などの供給)、調整サービス(森林に生息する昆虫等による花粉媒介、多様な種の存在によって特定の害虫の大発生が抑えられるような働きなど)、文化的サービス(釣りや散歩などの楽しみや静養、伝統文化・工芸などへの寄与、希少な生態系・動植物・遺産的特徴などに対する価値観など)、基盤サービス(これらのサービスを支える生物の営み、たとえば光合成による有機物や酸素の生成、栄養

循環、土壌形成など)が含まれます。

かつては日本中のいたるところで、これらすべての森林生態系サービスが十分に活用されていたと言えるでしょう。木の材がさまざまな家具、道具、食器などや燃料、実や葉などが食物、薬、染料、肥料などに利用されてきました。しかし、人と森の関わりが薄れつつある現代、天然林がもたらす供給サービスは人々の生活から離れていきました。もう一つの大きな変化は、生態系がもたらす市場経済的な価値が重視されたことです。その結果、ゴルフ場やスキー場などの商業的なレジャー施設の建設、それ以外の地域では木材自給率を最大限に高めるための人工林化が優先されました。

只見の特徴

巨大なレジャー施設や大規模な人工林化に適さなかった只見

町には天然林が広く残され、日常生活の中で豊かな森林生態系サービスの恩恵を受け続けている数少ない地域の一つです。大規模化による効率アップに対し、スモール・イズ・ビューティフル(小さいことは美しい)という考えがあります。経済的に見て、小規模なほうが効率よいことが多く、環境にもよいのは明らかです。もう一つ、大規模なバイオスフェア(生物圏)に生きる人々と小規模なエコシステム(生態系)で自給自足に重きを置いて生活する人々という区分があります。これまで人類はいずれも前者を幸せへの道標として目指してきました。しかし、南会津の特徴は「スモール・イズ・ビューティフル」と「エコシステムに生きる」の方に近く、環境の時代と言われる現代、目指す方向はこちらではないかと思っています。

その根拠としては、①山菜やキノコの採取、溪流釣り、狩猟などがさかんである、②農業が小規模で森林性昆虫への依存度が高い、③レクリエーション利用としては小規模な森林浴などに適している、④カモシカ、ヤマドリなど日本固有種が多く生息するが、特徴としては希少種が多いこと、などである。

このプロジェクトでは只見町を最重要地域のひとつと位置付け、天然林が生態系サービスの維持活用に大きな貢献をしていること、小規模な伐採などが古くから行われてきた森林への働きかけが無くなってきたことの影響、地域住民が主体となつて利用と資源の保護を図ってきた仕組みの重要性などを明らかにすることを目標に、調査を進めています。また、欧米では森林を利用する地域と原生的な状態を守る地域との間に明確な線引きをしようとする傾向があります。が、利用と保護が混然となりがらも、生態系サービスは持続的に活用されてきたこともアピールしたいと考えています。

巧みなスキー操作でタイム競う



▲ 華麗なフォームでゴール目指す

只見毎日杯 ジャイアント スラローム大会



1月24日、第37回只見毎日杯ジャイアントスラローム大会が、只見スキー場で行われ、時折小雪の舞うなかでの競技には、町内外はじめ県外からのエントリーもあり、81人の競技者でタイムが争われました。

タイムは、2本滑走した合計です。結果は次のとおりです。
(敬称略)

男子

- 【小学1部】①渡部賢太郎（只見町スキースポーツ少年団）1分14秒99 ②菊地朝仁（たかつえレーシング）③目黒冬馬（南郷ジュニアレーシング）
- 【小学2部】①白岩拓朗（喜多方スキースポーツ少年団）1分07秒86 ②長谷部宏仁（フォーチュンスポーツ少年団）③武藤憲（熱塩加納スキースポーツ少年団）
- 【中学】①目黒郷（只見町スキースポーツ少年団）1分03秒88 ②菊地大樹（たかつえレーシング）③土橋銀平（南郷ジュニアレーシング）
- 【少年】①五十嵐渉（三島町スキースポーツ少年団）1分10秒46
- 【成年1部】①岩佐俊祐（只見スキー協会）1分03秒91 ②梁取那緒（専修大学）③新國健道（只見スキー協会）

女子

- 【成年2部】①目黒英樹（喜多方スキークラブ）1分04秒34
- 【成年3部】①星弘（湯之谷スキークラブ）1分08秒03 ②小野寺信雄（東北電力福島）③板橋泰二郎（三島町スキースポーツ少年団）
- 【シニア】①舟木孝一（三島町スキースポーツ少年団）1分12秒88 ②坂本易雄（須賀川スキークラブ）③鈴木隆司（福島県マスタートーズスキー協会）
- 【小学1部】①猪俣向日葵（スクエアレーシング）1分17秒96 ②白岩真帆（喜多方スキースポーツ少年団）③菊地由芽（柳津町スポーツ少年団）
- 【小学2部】①佐藤萌（柳津町スポーツ少年団）1分12秒64 ②中丸玲菜（南郷ジュニアレーシング）③目黒綾菜（南郷ジュニアレーシング）
- 【中学】①栗田いつき（金山スポーツ少年団）1分09秒48 ②白岩いつか（喜多方スキースポーツ少年団）③目黒里佳子（三島町スキースポーツ少年団）
- 【一般】①本名恵理佳（川口高山スキークラブ）②諏佐遥（金山スキークラブ）③石川沙亜弥（神奈川大学）

福島県中学校体育大会 スキー競技大会の 主な成績

（1月13日～15日・金山町）

▼東北・全国大会出場

- 【クロスカントリ―男子フリー（5キ）】
2位 小林祐太さん
【アルペン男子スラローム】
5位 目黒 郷さん

▼東北大会出場

- 【クロスカントリ―男子フリー（4×5キ）】
3位 大竹大和さん
長谷川将樹さん
小林祐太さん
三瓶志門さん
【クロスカントリ―男子クラシカル（5キ）】
7位 長谷川将樹さん
14位 小林祐太さん
【クロスカントリ―男子フリー（5キ）】
10位 三瓶志門さん
12位 菅家将志さん
【アルペン男子スラローム】
8位 鈴木達也さん
【アルペン男子Gスラローム】
9位 目黒 郷さん

県と町が連携し景気回復の年に...

平成22年只見町新年交歓会

平成22年只見町新年交歓会が、1月5日に季の郷湯ら里で行われ、町内外から新年を祝う127名が出席、新年の抱負などを語り合いながら親交を深めました。

交歓会では、目黒町長と齋藤邦夫町議会議長が年頭のあいさつを述べ、続いて、来賓の渡辺典雄福島県南会津地方振興局長と渡部勝博福島県議会議員から祝辞をいただきました。

次に、只見松楓会の皆さんによる謡で新年の門出を祝い、祝宴に入りました。アトラク

ションには瞳の会の皆さんにご出演いただき、新春にふさわしい舞踊3曲をご披露いただきました。

最後に、只見町代表監査委員の小沼武夫さんが音頭をとられ万歳三唱をして、閉会しました。



▲ あいさつをする目黒町長

只見町消防団出初め式

町民の生命と財産を守る使命を再認識

1月10日、朝日地区センターで平成22年只見町消防団出初め式が行われ、副班長以上の幹部団員と関係者ら66名が参加しました。消防長の目黒町長が「消防団員としての職責を改めて自覚し、町民の安全を守るとともに、防火意識の高揚に努めてください」と訓示を述べました。また、馬場光男団長は「本年も、消す

消防よりも出さない消防に努めます。消防精神を堅持し予防消防を徹底します」と訓示を述べました。参加した団員は、今年一年の無火災を誓い合いました。



優秀教員表彰

伊藤清美先生（明和小学校）

学校教育において教育実践などに成果を挙げ貢献されている教員を優秀教員として表彰している文部科学大臣優秀教員表彰を明和小学校の伊藤清美教諭が受章されました。伊藤先生は、各校で研



修主任として研修を推進、特に国語科の研究で優れた成果を挙げました。作文のスキルを学年統計表にまとめ実践化され、児童の論理的文章力と基礎学力の向上に結びつけた研究で、短作文指導の有用性を実証し、県の国語教育の発展に貢献されたことなどが認められました。

表彰式は1月25日に東京で行われました。おめでとございました。

地域文化功労者

只見町名誉町民 皆川政一郎さん（郡山市）

福島県をはじめ国際的な活動で文化、学術、教育の振興、発展に貢献された、只見町名誉町民で書家の皆川政一郎さん（雅号・雅舟）が、文部科学大臣が表彰する地域文化功労者に決定し、11



月6日に東京で行われた表彰式で受賞されました。皆川さんは、只見町大字田子倉の出身。昭和47年に墨雅書道会を設立し、現在も会長として書道の普及に努められ、地域の芸術文化発展に貢献されています。

平成12年1月、只見町名誉町民となり町発展のため尽力されています。今後とも活躍されますことをご期待いたします。おめでとございました。

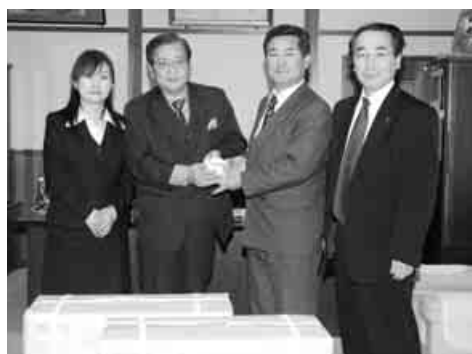
文部科学大臣表彰

アイネット株式会社（会津若松市）

住宅用火災警報器120台寄贈

1月25日、アイネット株式会社代表取締役鈴木洋さんをはじめ、同社上野かずえさん、星淳市さん、平野秀樹さんの4名が来庁され、住宅用火災警報器を120台寄贈されました。

この警報器は、創業20周年を迎えられた記念事業として贈られたもので、代表取締役の鈴木洋さんは「地域の安全安心と防災に少しでも寄与できれば幸いです」と話されました。なお、贈られた警報器は町内の高齢者ひとり世帯を対象に設置する予定で現在調査を行なっております。



▲ アイネット㈱の鈴木洋さん(左から2人目)と上野かずえさん(左)

マ 手びねり陶芸教室 マイカップやマイ茶わんを作ろう！



▲ 自分だけのマイ器づくりに熱中する参加者

1月18日と29日に朝日地区センターで第1回手びねり陶芸教室が開かれ、7名が参加しました。初回はろくろを使い、材料の土を細長くこねながら重ね合わせ、茶わんやマグカップなどの器に形を整えていきました。第2回目は出来た器に鉄や銅、コバルトなどを含んだ釉薬をぬり仕上げました。窯で焼く時間は約10時間、火加減や温度の状況によって焼き上がりの色は微妙に変わります。どんなオリジナル作品が完成するか、皆さん楽しみにしている様子でした。



▲ 釉薬をぬり仕上げの工程に入る参加者



▲ 楽しく作れば、おいしさも倍増？

只 郷土料理教室 見の伝統料理に舌鼓

只見に伝わる伝統の郷土料理を作り、みんなで楽しく試食する郷土料理教室が、1月27日に只見地区センターで開かれ、町内の主婦の皆さん16名が参加しました。この日のメニューは里芋とカボチャのバラエティサラダ、すいとん汁、鮭のじゅうねん揚げの3品。参加者は約2時間かけて、おいしそうで、彩りも豊かな伝統料理を完成させ、調理の感想などを話しながらの試食会も行われました。この教室は今後、2月と3月に2回ずつ開かれます。

簡 木工教室 簡単な家具や小物入れづくりに挑戦！

明和地区センターで1月14日から毎週木曜日に開かれている木工教室には5名が参加、松の木材を利用し、自分で設計した本棚や引き出し式の小物入れなど、思い思いの家具作りに挑戦しています。カンナやノミ、電動ノコギリなどの大工道具を慣れない手つきで扱いながら、マイペースで作製されています。この教室は4回行われ、最終回には何よりも愛着心のある五つの家具が完成の予定です。



▲ 「むずかしいなあ」を連発の参加者

緊

第35回カルタ大会

張感が漂う真剣勝負、元気な声がホールに響いた

1月20日、元気な「はい」の声が只見保育所のホールに響き渡った。今年も保育所児34名が参加し新春のカルタ大会が開かれました。所長先生の読み上げるカルタを見つけると素早く反応し、手を思いっきり伸ばしていました。中には、思うようにカルタが取れず、泣いてしまう子もいるほどで、予想以上の真剣勝負に先生も少々緊張気味、最後の表彰式では1・2・3等とがんばり賞が贈られました。



▲ カルタを見つける反応の速さは大人顔負け

お

新春だんごさし

じいちゃん、おばあちゃんと一緒に

明和保育所では、1月13日に恒例の団子さしが行われ、保育所児とそのおじいちゃん、おばあちゃん約35名が、みんなで丸めた色とりどりの団子をさしたり、みかんをつるしたりして楽しみました。その後、保育所児の歌や踊りが披露され、孫のかわいらしい姿に大きな拍手を送っていました。また、けん玉やカルタ取りなどでおじいちゃん、おばあちゃんと触れ合った後、みんなで昼食にすいとん汁を食べました。



▲ 今日は、じーちゃん・ばーちゃんが一緒に楽しいな～



▲ 雪下ろし作業に励む元気な野球部員

冬

只見高校野球部除雪ボランティア活動 場のトレーニングにも有効?

只見高等学校の野球部員とマネージャーなど10名で、1月17日に只見温泉保養センター屋根の雪下ろし作業を行いました。2メートル近く積もった大量の雪をスコップとスノーダンプを使い手際よく下ろしました。降雪時期は、ほとんど体育館での練習になる野球部員ですが、外での除雪作業も全身を使い、重い雪を動かすので、良いトレーニングにもなったと思います。ボランティア活動でも基礎体力づくりを欠かさない只高野球部です。

お

親子ソリのり

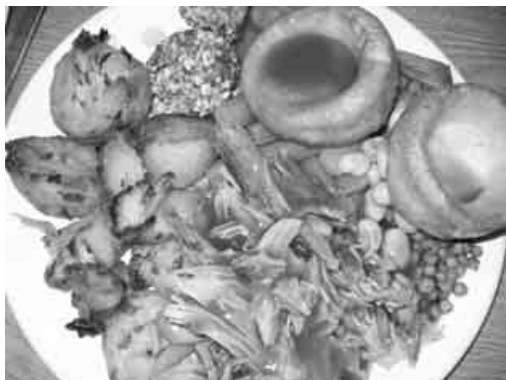
父さん・お母さんと滑るソリは最高!

朝日保育所の前に作られた大きな雪のすべり台で1月26日に、保育参観の親子ソリのりが行われました。参加したお父さん・お母さんに抱っこして滑ったり、友達と一緒に滑ったり、雪だるまや小さなかまくらを作ったりと、色々な雪遊びで思い思いに楽しい時間を過ごしました。最後は、お父さん・



▲ お父さんと滑るソリはスピードが出て楽しいよ～

お母さんと手をつないで、みかん拾いゲームを行なった後、手作りのお弁当をみんなで食べました。



ヴィッキーの にっぽん紀行

Vol.14

Victoria・Potter

ウィクトリア・ポッター

・1980年生まれ。英国ノーリッチ出身。
・2008年8月から町英語指導助手。



明けましておめでとうございませう。只見の皆さんが素晴らしい年を迎えたこととお慶び申し上げます。元日の只見は大雪だったそうですね。イギリスのクリスマスは落ち着いていてよいものでした。実家にいるとき、普通すぎて奇妙に感じました。まるで1年半の間、遠くに行っていた事実などなかったかのようで…。そこで私が楽しんだのは家族や友人にいろいろな話をつたえることでした。彼らは日本や只見についての様々な質問を投げかけてきました。普段どんな日常を送っているのか、学校では何を食べているのか、只見はどれほど雪が降るのか、日本のテレビを観てどう思うか、などなど。彼らは私が久しく考えていなかったことを尋ねてきました。私が初めて日本に来たときからの生活の違いやイギリスとの習慣の違いは、今となつては私にとつて経験してきた事実でしかないのです。それは、私が長い間日本に住み、生活してきたことで、すべてが普段の日常になり、今はもう違いについて考えないようになつていたと言ふことです。

以前にも述べたとおり、イギリスのクリスマスはたいい家族と共に過ごします。クリスマスの日は両親と私の中に祖母が加わります。私はノーリッジの小さな家族の中で育ちました。クリスマスも大家族と比べると静かなものです。上の写真にあるようなディナーを楽しみます。それはローストポテト、ラム、お肉と香草のだんご、パースニップ（セリ科の植物）などの野菜、肉汁ソース、ヨークシャーブディングとなつていきます。昔はクリスマスのディナーは伝統的にガチョウが食べられていましたが、現在は高価なことと油分が多めと言う理由でガチョウよりもターキー（七面鳥）が食べられるようになつてきました。また、多くの家族ではクリスマスに他の肉類も食べられます。昔のイギリスではそれらの肉は高価であつたため、それほど頻繁には食べられず、伝統的に日曜日だけ食べられていました。現在は毎食にお肉が食べられるようになりました。イギリスの食事は日本よりも、多くの肉料理を食べています。私の母は今でも日曜日にごとにチキンかビーフのローストディナーを作ります。それらは私のお気に入りの食事です。カロリーは高いのですが…。

イギリスの新年は日本と比べてとても静かで、特に伝統的なものはありません。大晦日には多くの人たちは外出し、友人と共に、みっちりお酒を飲みます。新年は国民の祝日であり、家族と共に過ごします。また、少数ですが元日に教会に行く人もいます。私は大晦日は友達と過ごし、新年は家族と過ごしました。実家に帰り、友人や家族と楽しく過ごしましたが、再び日本に戻つてこられたこともとてもうれしいことです。日本もイギリスも、私のふるさです。

（訳・只見中・平野）

広報ただみ診療所

朝日診療所 医師 星 野 弘 尊

「感冒（風邪：かぜ）」

あけましておめでとうございませう。今年もよろしく願ひします。

初めての只見の冬は、大変雪が多く大変驚いています。

さて、冬は乾燥し、感冒が多くなつてきます。今年はインフルエンザも流行し、予防が大変重要になっていきます。皆さんは正しい知識を持ち、正しい予防法を行つていきますか？

これからの時期を健康で過ごすために正しい知識をつけていきましょう。

感冒の定義は様々ですが、鼻腔、口腔、咽頭などの上気道の粘膜が、寒冷などの刺激、ウイルス感染によって、急性の炎症を起こす病状とされています。

いわゆる『かぜウイルス』と呼ばれるものは、ライノウイルス、コロナウイルスなど200種類以上います。

くしゃみ、鼻水、咽頭部不快感、乾性の咳嗽、全身倦怠、軽度の頭痛などを主症状とし、透明な鼻汁の増加、咽頭部の発赤などを呈します。かぜによる症状の持続期間は平均2～3日程です。しかし、咳嗽は1週間以上持続する場合があります。

人によっては気道過敏性が亢進し、1カ月以上続く場合もあります（マイコプラズマなどの場合もあります）。

治療には通常、抗生物質は使用しません。東洋医学では漢方薬、西洋医学では解熱剤等の対症療法が中心です。しかし、発熱に関しては一種の生体防御反応であり、解熱が自然治癒力を低下させ、かぜを長引かせている可能性も指摘されています。

ただし、高齢者や幼児などは激しい発熱による脱水、消耗等を回避するため適切に使用することが必要です。

予防が一番大切です。手洗いうがい、マスクの着用、湿度を保つ、十分な睡眠、十分な栄養、暴飲暴食をやめる、禁煙、節酒などがあげられます。

特に手洗いは帰宅後には行い、持ち込んだウイルスを家具等につけないようにします。うがいは水道水で効果十分です。ヨード入りのうがい薬は、かぜ予防の効果を低下させるという報告もあります。マスク着用はウイルスの侵入を防ぎ、口腔粘膜の乾燥を防ぐ効果もあります。その他の項目は『免疫』を働かせるために必要です。

気温が低く、乾燥し、かぜをひきやすい季節です。元気に過ごすために予防を徹底し、只見の冬を乗り切りましょう。

国際生物多様性年の

「生態系サービス」調査チーム

森林総合研究所とは、森林を総合的に研究する日本で唯一の研究機関です。つくばの本所を中心に、北海道から九州まで全国に研究拠点をもっています。この研究所が2年前から只見町で「生態系サービス」の調査をしています。この中間報告会が、1月23日、季の郷・湯ら里で行われました。只見での調査が、国内の先進的研究として注目されるかもしれません。只見の自然の奥深さを、プロジェクトチームの方々にじっくり解説していただきます。6回連載です。お楽しみに。

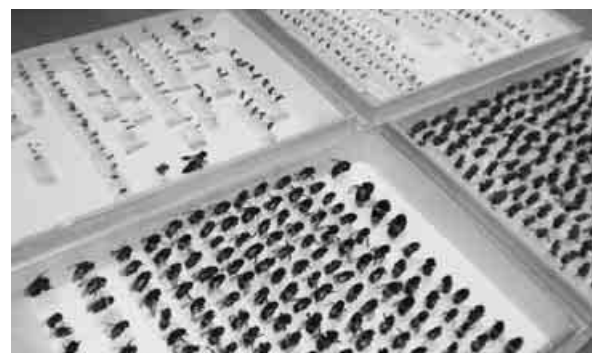
町にはいろいろな人たちがやっています。その時代を反映している訪問団もあります。「なぜ只見で始めたのか？」と、時々聞かれますが、今の時代背景がその答えになるかもしれません。これまで森林が関係する「環境問題」が話題となったことが何度かありました。1990年代の初めは国連の地球環境サミットがリオデジャネイロで開かれ、温暖化と森林の関係が関心を呼びました。生物多様性も話題になりましたが、自然保護団体を中心とする運動の効果もあり、種の絶滅速度を低下させることに関心が向き、生物と社会とのつながりについては意識が高まりました。こうした時期がしばらく続いて、日本では世論調査などを見る限り、関心が全体的に薄れかけてきたように見えたところに、2010年、名古屋で大きな国際会議が開かれることになりました。



箱庭的な景観は多様な生態系サービスの揺りかごとす

者は強い訴えかけに欠けていました。ところが最近、生物多様性が「生態系サービス」という言葉を介して語られる機会が増えてきました。生態系サービスは人々が生態系から得ている恩恵を意味し、生活の基盤となる生態系と恩恵を受ける人間の結びつきがきわめて適切に表わされています。言葉の持つ力は大きく、人々の関心をより高めるのは自然なことです。

我々が「生態系サービス」についてのプロジェクトの仕込みを始めたときから数年たちますが、関心の高まりや国際会議の開催などと重なり、予算が下り、茨城県にある森林総合研究所というところから調査団が来るようになったわけですが、何を目標に、どのような調査をしているのでしょうか。チームは大きく三つに分けられます。一つは、生態系サービスの基盤となる昆虫・植物・溪流魚などの調査隊で、種類や数のほかに花粉を運ぶ昆虫や天敵などに焦点を当てて調べています。二つめは、生態系サービスが人々に与える恩恵について、地元の人たちに発信機をつけて山の中に入ってもらえれば、外から来た人たちが何を楽しんでいるかを調べています。三つめは、これまで売買取値を計ってきたのに対し、アンケートや聞き取り調査を通して、売買されているもののも含めて生態系サービスの経済価値を計ろうとするチームです。一人が複数のチームに入って忙しく動いています。中国・アメリカ・イギリス・スイスからの訪問客もお連れしました。このような調査を通じて、どのような森林を維持すれば、より大きな恩恵が得られるのか、明らかにしたいというのが目標です。



只見町で人々の生活に貢献しているハナバチ(森林総合研究所、滝久智提供)

たらず豊かな生物相がこれほどまでに揃っているところはあまり多くはありません。雪が多い、天然林が比較的広い面積で残っている、雪崩や火入れなどで小規模の攪乱を受けている、大規模伐採から逃れた古い林も比較的良好に残っている、といった条件を揃えた地域は少ないからです。そのうえ、都会から近すぎず遠すぎず、乱獲から資源を守り、持続的に利用するための自衛手段を講じることができるといいうことも重要です。まだ、我々の仕事も道半ばですが、少しでも只見町にとってお役に立てれば幸いです。

町民文芸



只見短歌会

十二月詠草

大塚栄一

指導

古川 英子

九十七歳の母の手紙が届きたり除雪の夫を声あけて呼ぶ

齊藤ちひろ

ずっしりと雪の重みに耐へてゐる松の緑を見つめ佇む

吉津 政枝

年重ね賀状書く数減りゆきて師走のひと日寂しさ過ぎる

渡部ゆき子

再三の出品請はれ協力し白菜出せば賞を受けたり

五十嵐英子

施設より妹の家に外泊し囲む年越しの夕餉賑はふ

目黒 富子

冬期間帰省するなど言ひつつも娘の分仕込み歳晚迎ふ

皆川 恒子

正月に搗きたる餅を曾孫らは焼きてと言ひて搗きたて食まず

五十嵐夏美

押入れの隙間を齧る鼠ゐて猫の鳴き声真似れど止めず

渡部ヨリ子

茶簞筥の引戸を開けて笑ひつつ小さき手にて孫いたづらす

新国 洋子

有名な歌手の名夫もわれも忘れもどかしみつつ認知と笑ふ

只見俳句会

新年句会

目黒十一

指導

修 一

初雪の浅草岳がど真ん中

蒼穹や破魔矢いただく輪王寺

一 灯

雪囲終えたる村の佇まい

又壺歩

初雪や摘み残したる菜の青く

贈りもの小振りとなりし師走かな

邦 男

瀬戸物の触れ合う音や十二月

吉 児

トナカイの鈴の音遠し冬北斗

隆 堂

木枯や筑後の空の力士旗

上木の仕分け作業や年つまる

邦 夫

農守り老守るくらし障子張る

笑 羊

湯豆腐の浮くやゆっくり箸を割る

元兵の天突き運動息白し

リウコ

冬桜花のやさしく咲きにけり

数え日や良き出来事で終りたし

踏み出でて雪の深さを知らざる

降る雪や窓越しに見る庭木立

傘に積む雪振り払う停留所

門松の立つや甘酒熱くして

年明けやこの星空の田も畑も

海風や房総の空凧上がる

冬温し二人ならびて厨事

村の湯の少し温めの冬至の日

朝寒や学童の列足早に

丹念に道具洗って農収む

ストックの匂いこめたる冬の居間

日当たりていつしか雪は軒に無く

くろき雲しろき雲脚冬満月

踏みしむる雪の深さや月明り

礼

郁 子

康 女

今月のお知らせ

電話番号

総務企画課	
総務班	☎82-5050
	☎82-5210
企画班	☎82-5220
町民生活課	
税務班	☎82-5110
町民班	☎82-5100
保健福祉課	
保健班	☎84-7005
福祉班	☎84-7010
産業振興課	
農林班	☎82-5230
交流推進班	☎82-5240
環境整備課	
地域整備班	☎82-5270
生活環境班	☎82-5280
会計室	☎82-8120
議会事務局	☎82-5300
農業委員会	☎82-5230
教育委員会	☎82-5320
学校給食センター	☎84-7180
只見保育所	☎82-2219
朝日保育所	☎84-2038
明和保育所	☎86-2249
朝日診療所	☎84-2221
(歯科)	☎84-2612
訪問看護ステーション	☎84-2130
こぶし苑	☎84-2101
保健福祉センター	☎84-7005
只見地区センター	☎82-2141
朝日地区センター	☎84-2111
明和地区センター	☎86-2111

募集

RECRUITMENT

平成22年度 只見町 臨時職員

次により、臨時職員を募集します。

職種

- ①事務補助員 若干名
- ②保育士 5名以内

勤務部署

- ①役場本庁
- ②町内保育所

業務内容

- ①一般事務補助
- ②保育業務

応募資格、要件等

- ▽只見町に本籍又は住所を有する者(全職種共通)
- ①パソコン操作(ワード、エクセル等)
- ②保育士資格
- 試験内容 面接

雇用期間

平成22年4月1日～

平成23年3月31日の間

勤務時間、給与等

町の規程による。

応募方法

受験申込書(総務企画課、朝日・明和地区センターにあります)に履歴書(市販のもの)を添付され、総務企画課総務班へ提出してください。

応募期限 2月19日(金)必着

採用考査の日時

2月下旬に役場本庁で行ないます。(応募者に別途試験実施の日程を通知します)

問い合わせ

総務企画課総務班

☎0241-8215050

平成22年度 只見町 奨学生

優秀な人材を育成するため、無利子で奨学資金をお貸ししま

す。希望者は、次の事項に留意され、お申し込みください。

対象及び条件

▽平成22年度に高等学校・短期大学・各種学校又は大学に進学を希望している生徒

で、品行が正しく、学術に優れ、身体強健であること。

▽貸与を希望される方が、只見町に本籍又は住所が引き

続き6ヵ月以上有すること。

▽経済的理由により、修業が困難と認められること。

貸与月額

▽高等学校 月額12,000円以内

▽私立大学 月額40,000円以内

▽国公立大学・短期大学及び各種学校 月額30,000円以内

▽支度金(4年制大学に限る) 大学入学時 300,000円以内

●奨学資金の返還

奨学資金の返還

申込手続

奨学生は、卒業もしくは退学・奨学金辞退等の月より6ヵ月後から8年以内に月賦で返還していただきます。

教育委員会・各地区センター・只見中学校・只見高校・南会津高校にある「願書」に必要事項を記入し、在学校に「推薦書」を作成・交付していただいた上で、家族全員の所得証明書及び住民票(世帯票)を添え、願書等の交付の際に同封される「募集のしおり」の注意事項を厳守の上、教育委員会事務局に提出してください。

募集受付期間

2月19日(金)まで

奨学生の採用決定

教育委員会で決定し本人に通知します。通知は、3月下旬頃になります。

問い合わせ

教育委員会事務局学校教育班

☎0241-8215320

税 今月の納期

2月25日までに納めましょう

●水道使用料(4期)

●農集排使用料(2月分)

平成22年度

科目等履修生・研究生

会津大学短期大学部では、次のとおり科目等履修生及び研究生を募集しています。

履修または研究内容

産業情報(経営・デザイン)、食物栄養、社会福祉、教養基礎に関する科目または内容

期間

履修期間は履修科目により半年または1年。研究生の研究期間は1年以内。

募集人員

若干名

受付期間

平成22年3月1日(月)～5日(金) ※5日の消印有効

選考日時(科目等履修生)

平成22年3月11日(木)午前10時から本学にて行います。

選考方法

科目等履修生は書類審査および面接。研究生は書類審査

問い合わせ

会津大学短期大学部事務室

☎0242-3712301

着地型の観光を目指し
「4月から一般社団法人」
「6月 国内2種旅行業取得」
に向かっていきます。

只見町観光

まちづくり協会

「通過型観光から、
滞在型観光へ」

着地型旅行・・・観光業界でいま最も注目されている国内旅行のスタイルです。着地型旅行とは、地元の人々が自ら地元ならではの観光素材を用いた旅行を企画し販売することを言います。只見町観光まちづくり協会は、一般社団法人となり町内初の旅行業社として、町民と一緒に「農・商・工」連携の観光による地域振興を目指します。



どうかわるの？

- 観光バスツアーの企画販売。ツアーの手配と販売。大手旅行会社との提携。オプションの販売。町内の皆様の旅行の手配も可能となります。
- 委託事業以外にも新たな収益事業にチャレンジできます。

- （特産品の販売強化。観光に繋がる郷土料理のPRなど）
- 任意団体から法人化されることにより、責任が明確となり対外的に交渉しやすくなります。

※只見町観光まちづくり協会では、法人、町民、只見町ファンの皆様から基金を募集しております。詳しくは、☎82215250までお問い合わせください。

住民基本台帳の閲覧状況の公表について

住民基本台帳の閲覧は、国又は地方公共団体が法令に定めのある業務か、世論調査などの公共性があり、行政の政策に反映されるなどの場合にのみ認められています。

住民基本台帳の閲覧状況を住民基本台帳法の規定により下記のとおり公表します。
(平成21年1月1日から平成21年12月31日)

●国又は地方公共団体 (住民基本台帳法第11条第3項に基づくもの)

請求機関の名称	福島県	防衛省
閲覧年月日	平成21年1月27日	平成21年10月30日
請求事由の概要	ふくしま男女共同参画プランに関する県民意識調査のため	自衛官募集に伴う広報のため
閲覧にかかる住民の範囲	福井地区 20歳以上の男女	平成4年4月2日から平成5年4月1日までに生まれた男女 平成7年4月2日から平成8年4月1日までに生まれた男子

●個人又は法人 (住民基本台帳法第11条の2第12項に基づくもの)

閲覧申出者の氏名	(株)クサカ印刷所 代表取締役 日下直哉	(株)コスモアトリエ 代表取締役 矢吹誓一郎
閲覧依頼元	福島県	福島県
閲覧年月日	平成21年10月2日	平成21年10月15日
利用目的の概要	県民健康調査のため	生涯学習に関する 県民意識調査のため
閲覧にかかる住民の範囲	布沢地区 15歳以上の男女	黒谷地区 大正8年3月から 平成14年4月までに 生まれた男女

町 長 室 日 誌

〈 1 月 分 〉

- 4日 仕事始めの式
(南会津地方広域市町村圏組合消防署只見出張所、こぶし苑等、只見町役場、西部環境衛生組合)
- 5日 新年交歓会、年始知事懇談会、南会津地方町村会県庁関係部署へ要望活動
- 6日 県庁年賀の挨拶回り、福島民報及び福島民友新聞社へ年賀の挨拶と雪まつり広報宣伝のため訪問
- 7日 電源開発(株)東日本支店長来庁、郡山国道事務所長来庁
- 10日 消防出初め式
- 12日 南会津農林事務所長来庁
- 13日 定例庁議、南会津建設事務所建築住宅部長来庁
- 14日 松枝岐村長来庁
- 18日 南会津保健所長他来庁
- 19日 只見川流域五町村長会議、葛西龍樹医師来庁
- 20日 雪まつり雪運搬開始式
- 21日 政策要望のため県庁出張
- 23日 南会津地方振興局長来庁、生物多様性講演会
- 24日 只見毎日杯G S大会
- 25日 東北電力会津若松営業所長来庁、火災報知機寄付のためアイネット来庁
- 26日 第2回雪まつり実行委員会、松枝岐村長と打ち合わせのため出張
- 27日 竹田綜合病院長と面談、会津を拓く講演会出席
- 28日 東邦只見親和会
- 30日 第24回青少年健全育成主張大会・標語表彰式

町民の消息

(12月29日～1月31日届出分) 敬称略

■お誕生おめでとうございます

根本 すみれ

(女/雄太郎・純 子) 只 見

■おくやみ申し上げます

馬 場 カツヨ 88 塩ノ岐

角 田 キクヨ 95 小 林

横 山 紹 夫 77 只 見

阿 部 正 雄 77 只 見

鈴 木 光 雄 85 長 浜

角 田 一 彬 86 小 林

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

平成22年1月1日現在

人 口 5, 0 2 4 (－7)

男 2, 3 9 4 (－6)

女 2, 6 3 0 (－1)

世帯数 1, 9 0 1 (－2)

高齢化率 4 1. 4 %

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 7 転出 4 出生 4 死亡 1 4

▽役場にほど近い国道に設置された温度計が、先日、マイナス13度を表示していた。その夜は、月と星がきらびやかに輝き、凍てついた只見の街並みを明るく照らしていた。これ以上ないほどの澄み切ったクリアな空気。静まり返った夜。雪道を歩くと真つ白な雪が「ギュ、ギュ」と音をたてる。比較的暖かい只見の冬で、そう多くない厳寒の夜。これも真冬の風物詩。▽冬の風物詩といえ、只見ふるさとの雪まつりがスタートしました。すべて忘れて、とにかく楽しめましょう。雪と遊びましょう。

あとがき

町民憲章

- 1、 ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 1、 互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう
- 1、 産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 1、 教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- 1、 きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

まちづくり推進員
若林 奈津子

朝日地区センター
図書室 ☎84-2059

おすすめ新着図書

★時間割のむこうがわ



小浜ゆり／著 (ポプラ社)

いつもの学校、いつもの一日、でもちょっと違う。

夢の続きが学校で起きてあわてる少女。猫の言葉がわかる少女。おばけが見える少年。

とてもわかりやすい表現で物語が進みます。ぜひ小中学生に読んでもらいたい本です。

★おばあちゃんがいるといいのにな



松田素子／著 (ポプラ社)

孫とおばあちゃんのお話です。どれだけこの男の子がおばあちゃんをよりどころにしていたのか、読みすすめるうちに胸が締め付けられ、ページをめくるのが大変です。命のリレー、感動するすばらしい作品です。

★夢をつかむ法則



向山恵理子／著

(角川学芸出版)

一気に読めちゃいます。何ごとも「無理」なんて言っちゃえば「無理」。夢をあきらめず、ひたすらポジティブな筆者の行動力に驚きます。

「17歳の私には17歳の夢があり、21歳の私には21歳の夢... 私が40歳になったら40歳の...80歳になったら80歳の夢がきつとある。」「若すぎるってことないし、遅すぎるってこともない」「言い訳や悪口を言うと夢は逃げてっちゃう」

夢をつかむ法則が9つ書かれています。読み手が元気になれる本です。

★図書室に関する要望や購入図書の希望など、お気軽にお寄せください。

おんべ



※この広報紙は再生紙を使用しています

小正月行事の「おんべ」。稲ワラや萱などを重ね合わせ雪上に作られる「おんべ」は、高さ約5メートル。夕方、辺りが暗くなるころ、その年の厄男や年男が火をつける。厳寒の夜空に赤々とのびる炎に人々は、一年の無病息災や五穀豊穡を祈願する。



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

イベントカレンダー

2月

● 13、14日(土・日)
「第38回只見ふるさとの雪まつり」
・・・只見駅前広場」

4月

● 1日(木)
「溪流釣り解禁」
25日(日)
「要害山トレッキング」

▼六十里越雪わり街道のポストカード
(3枚1組)が完成しました。希望
者に窓口にてプレゼントしています。
(お一人様1組まで)

▼只見駅の中において、青豆、黒豆、
小豆、打ち豆、もち米などを揃えて
販売しています。町民の皆さんも出
品してみませんか。詳しくは、お問
い合せください。

▼問い合わせ

只見町観光まちづくり協会

☎0241-8215250

営業時間 午前8時半～午後6時